

世界セルフケア連合会（GSCF）アジア地域会合・アジア太平洋セルフメディケーション協会（APSMI）総会（北京）報告

2019年10月22日～24日、北京にて第9回アジア太平洋セルフメディケーション協会（APSMI）理事会及び第12回世界セルフケア連合会（GSCF）アジア地域会合・第5回APSMI総会が開催されました。日本一般用医薬品連合会（一般薬連）は、日本の業界を代表してAPSMIのメンバーになっています。

APSMIは、アジア太平洋地区の7か国（中国、台湾、インドネシア、韓国、日本、タイ、フィリピン）のOTC医薬品業界団体及び7社のOTC医薬品製造会社を会員として、地域におけるセルフメディケーション推進のために活動しています。その事務局は日本にあり、事務総長は一般薬連の富永顧問（非常勤）が務めています。（詳しくは [APSMI ホームページ](#)（英語）をご覧ください）

GSCFは、欧米をはじめ世界各国のOTC医薬品業界とOTC医薬品製造会社を会員とする組織で、地球規模でセルフケア・セルフメディケーションを推進しています。日本からは業界団体として日本OTC医薬品協会が会員になっています。

10月22日に開催されたAPSMI理事会で、柴田仁会長（大幸薬品株式会社代表取締役会長）が、日本のOTC医薬品規制、日本のセルフメディケーション税制や、OTC医薬品普及啓発イベント「よく知って、正しく使おう OTC 医薬品」について報告しました。

このほか同理事会では、APSMIが最近編集したAPSMIカントリーレポートや、アジア地域のOTC医薬品規制当局の会合であるSelf-CARERに対するAPSMIの支援などが議論されました。



APSMI 理事会での柴田会長



APSMI 理事会での野上理事

翌 23 日、24 日の GSCF アジア地域会合・ASPMI 総会では、世界と中国におけるセルフケアに関する諸問題について公開で講演・議論が行われました。取り上げられた話題は、中国の健康政策の OTC 市場に与える影響、e-コマースによる OTC 医薬品販売の世界的な情勢、(ビッグ)ヘルスデータの OTC 医薬品にとっての意義等です。[\(全体のプログラム\)](#)

この会合では、一般薬連の柴田会長と野上麻理理事(武田コンシューマーヘルスケア株式会社 代表取締役社長)が講演を行いました。柴田会長は、日本における OTC 医薬品開発の成功事例を議論し、中国において日本製 OTC 医薬品をより自由に販売できる制度の提案を、野上理事は、日本における OTC 医薬品市場の現況や将来展望について報告し、セルフメディケーション税制の改善を訴えました。富永顧問は、ケーススタディセッションの座長を務めました。



GSCF アジア地域会合・ASPMI 総会で講演する柴田会長(上)、野上理事(下)。

